

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
理工学部 (旧工学部)	機械工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			18	18	13	
	機械工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			13	13	13	
	機械システム工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			25	25	13	
	機械システム工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			20	20	13	
	電気電子通信工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			24	24	13	
	電気電子通信工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			22	22	13	
	医用工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			13	13	13	
	医用工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			13	13	13	
	エネルギー化学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			18	18	13	
	応用化学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			18	18	13	
	原子力安全工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			30	30	13	
	原子力安全工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			24	24	13	
	自然科学科	夜・通信			20	20	13	

理工学部 (旧工学部)	建築学科	夜・通信			28	28	13	
	都市工学科	夜・通信			30	30	13	
建築都市デザイン学部	建築学科	夜・通信			29.5	29.5	13	
	都市工学科	夜・通信			29	29	13	
情報工学部 (旧知識工学部)	情報科学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			15	15	13	
	情報科学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			15	15	13	
	情報通信工学科	夜・通信			19	19	13	
	知能情報工学科 (2020年度入学以前)	夜・通信			18	18	13	
	知能情報工学科 (2021年度入学以降)	夜・通信			18	18	13	
	自然科学科	夜・通信			20	20	13	
環境学部	環境創生学科	夜・通信		6	20	26	13	
	環境経営システム学科	夜・通信			18	24	13	
メディア情報学部	社会メディア学科	夜・通信		6	14	20	13	
	情報システム学科	夜・通信			12	18	13	
都市生活学部	都市生活学科	夜・通信			20	20	13	
人間科学部	児童学科	夜・通信	2		18	20	13	
<p>(備考) 工学部建築学科は学生募集停止しているが、在学生在籍中。 2020年4月建築都市デザイン学部建築学科新設。 工学部都市工学科は学生募集停止しているが、在学生在籍中。 2020年4月建築都市デザイン学部都市工学科新設。 情報通信工学科は学生募集停止しているが、在学生在籍中。 知識工学部自然科学科は学生募集しているが、在学生在籍中 2020年4月理工学部自然科学科新設。 2021年4月エネルギー化学科は応用化学科へ名称変更。 理工学部機械工学科、機械システム工学科、電気電子通信工学科、医用工学科、応用化学科および原子力安全工学科は2021年4月教育課程の変更を行った。 情報工学部情報科学科および知能情報工学科は2021年4月教育課程の変更を行った。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

インターネットにより公表

<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 理事（役員）名簿の公表方法

インターネット（学校法人五島育英会）により公表 https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/kihukoui/index.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人亜細亜学園理事 東急株式会社代表取締役 副 社長執行役員	2021.5.27 ~ 2024.5.26	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東急不動産ホールディングス 株式会社取締役会長	2021.5.27 ~ 2024.5.26	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東急株式会社代表取締役会長	2022.5.20 ~ 2024.5.26	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東京都市大学校友会会長	2021.5.27 ~ 2024.5.26	組織運営体制への チェック機能
非常勤	東京都市大学校友会副会長	2021.5.27 ~ 2024.5.26	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度中に科目担当者がシラバスを作成する。その後、科目担当者以外の第三者が、記載内容が適正であるかをチェックし、必要に応じて修正した上で、前年度の3月31日までにシラバスを予め公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 科目担当者が授業科目の特性に応じた成績評価の方法をシラバスに記載している。これにより、学生に対して予め、成績評価の方法を示している。当該方法に基づいた素点(100点満点法)が60点以上の場合に合格とし、単位を認定している。 なお、成績評価の基準は、学修要覧に掲載している履修要綱において定めている。59点以下が「不可」、60～69点が「可」、70～79点が「良」、80～89点が「優」、90～100点が「秀」である。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 以下のとおり、成績評価において、予め客観的な指標を設定し、数値を算出している。算出された数値は、退学勧告の基準や成績の分布状況の把握等に用いている。</p> <p>【2020年度以降入学生対象】 客観的な指標は、f-GPA(ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ)方式により算定した評定値とする。算出方法は、以下のとおり。</p> $\frac{(\text{履修した各科目の GP} \times \text{単位数}) \text{ の合計}}{\text{履 修 単 位 数}} = \text{評定値}$ <p>※GP = (科目の得点 - 50) / 10 ただし、科目の得点が60点未満の場合、GPは0とする。</p> <p>(1) 評定値算出対象科目は「卒業要件対象科目」とする(卒業要件非加算の単位数は含めない)。</p>	

- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とするが、成績評価が不可能な科目は分子・分母ともに対象外とする。
- (3) 評定値算出には必修科目を必ず算入し、それに加えて以下の数値を超えない単位数となるまで、必修科目以外の科目をGPが高い順に算入する。つまり、以下の単位数を超過した分は、その時点での評定値算出には含まれない。

1 年前期終了時： 20 単位	1 年後期終了時： 40 単位
2 年前期終了時： 60 単位	2 年後期終了時： 80 単位
3 年前期終了時： 100 単位	3 年後期終了時： 118 単位
4 年前期終了時： 121 単位	卒業時： 124 単位

- (4) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のみ最新評価結果に変更して算出する。
- (5) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めない。
- (6) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。
- (7) 評価が「認定」の科目は、評定値算出の対象にならない。

【2018・2019 年度入学生対象】

客観的な指標は、f-GPA（ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定した評定値とする。算出方法は、以下のとおり。

$$\frac{\text{(履修した各科目の GP} \times \text{単位数) の合計}}{\text{履 修 単 位 数}} = \text{評定値}$$

※GP = (科目の得点 - 55) / 10

ただし、科目の得点が 60 点未満の場合、GP は 0 とする。

- (1) 評定値算出対象科目は「卒業要件対象科目」とする（卒業要件非加算の単位数は含めない）。
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めない。

【2017 年度以前入学生対象】

客観的な指標は、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定した評定値とする。算出方法は、以下のとおり。

$$\frac{\text{(秀の科目単位数} \times 4) + \text{(優} \times 3) + \text{(良} \times 2) + \text{(可} \times 1) + \text{(不可} \times 0)}{\text{履 修 単 位 数}} = \text{評定値}$$

- (1) 評価値算出対象科目は「卒業要件対象科目」とする（卒業要件非加算の単位数は含めない）。
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、

分母（履修単位数）に含めない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/ 全学生に配付している学修要覧に掲載
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>【卒業の認定に関する方針の具体的な内容】</p> <p>大学全体として、以下の通り卒業の認定に関する方針を定めている。また、これを受けて各学部においても、卒業の認定に関する方針を定めている。</p>	
<p>東京都市大学は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を取得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <p>（自ら学ぶ力）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。 （課題を探究する力） 2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。 （ボーダーを超える力） 3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。 （協働する力） 4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。 （実践する力） 5. 人類文化と社会を理解し、基礎的および専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。 	
<p>【卒業の認定に関する方針の適切な実施状況】</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、各学部教授会で卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京都市大学
設置者名	学校法人 五島育英会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネットにより公表 (大学)
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/ (学校法人五島育英会)
事業報告書	
監事による監査報告(書)	https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書 対象年度:2022年度)
公表方法:インターネットにより公表 https://goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/2022gigyokeikaku.pdf
中長期計画(名称:東京都市大学アクションプラン2030 対象年度:2030年まで)
公表方法:インターネットにより公表 http://tcu-actionplan.jp/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/programs/selfinspection/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/programs/selfinspection/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 理工学部 (旧 工学部)
教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 教育理念である「理論と実践」のもと、理工学に関する深い専門性、幅広い教養、豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力及び高い倫理観を涵養し、これらの学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学科に応じて学士 (工学) 又は学士 (理学) の学位を与える。 1. 幅広い教養と豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬している。 2. 学びを統合させることによって、主体的に社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦する姿勢、理工学に関する深い専門性と多面的な思考力、倫理観を修得している。 3. 幅広い教養と深い専門性を持ち、自ら学び続けながら未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、技術者や研究者をはじめとしたプロフェッショナルとしての倫理観の修得、及び、イノベーションにつながる全体最適解を導く力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/) (概要) 理工学部では、「理論と実践」という学部の教育理念のもと、学びを統合させることによって、主体的に社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、自ら学び続けながら未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、及び、技術者や研究者をはじめとしたプロフェッショナルとしての倫理観を持つ人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 幅広い教養と豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」・「PBL 科目」を配置する。 2. 理工学に関する深い専門性と多面的な思考力、倫理観を修得するために、「理工学基礎科目」と「専門科目」を体系的に配置する。 3. 問いを生み出す力、実社会での複合的な課題を抽出しその課題の解決に果敢に挑戦する姿勢、社会を変革し未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、及び、イノベーションにつながる全体最適解を導く力を修得するために、「専門科目」に事例研究や卒業研究等を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)

<p>(概要)</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的】</p> <p>科学技術の根幹をなす“ものづくり”を支える工学と、自然科学における真理の探求を目指す理学を融合した理工学部では、「理論と実践」という教育理念に基づき、理工学分野の基礎および専門知識を身に付けるとともに、科学的根拠に基づく実践によって社会の要請に応えることができる先進的な技術力や論理的な思考力を備えた人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高等学校で学習する内容をよく理解して、専門分野を学ぶために必要な基礎学力を備えている人 • 自然科学および科学技術に強い関心を持ち、未知の課題に取り組む意欲がある人 • 理工学部で学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人 • 多面的な思考力と幅広い視野を持って自らの考えを述べることができ、社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人 <p>【高校での学習について】</p> <p>理工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B） • 理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、物理、化学、生物） • コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ

<p>学部等名 建築都市デザイン学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築，社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとし，持続的な建築・都市の創造・再生を実現するため，社会の要請に対応できる高い能力をそなえた人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し，以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に，学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の発展に貢献する社会人としての，豊かな教養と人間性を修得している。 2. 建築都市デザイン学全般で必要な基礎学力と，学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。 3. 現実に即した発想のもとに，理論的裏付けを持った実践によって，社会の要請に対応できる能力を修得して
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建築都市デザイン学部では，基礎・基本に重点をおき，専門領域の基本となる考え方を学ぶ。その上で，現実に即したアイデアにより，理論的裏付けを持ったデザイン能力を有する人材を養成するため，次のように教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し，それを支える心身を鍛錬するために，「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」・「PBL科目」を配置する。 2. 建築都市デザイン全般に共通する根底となる知識・能力（実行，思考，協働など）・倫理観及び深い専門的知識・能力を修得するために，「学部基盤科目」・「専門科目」

<p>を体系的に配置する。</p> <p>3. 技術者として仕事を遂行する基礎力、実社会での課題を探究する能力及び実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するために、「専門科目」のうち事例研究や卒業研究等を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的人材の養成及び教育研究上の目的】 建築都市デザイン学部は、住環境から都市環境さらには地球環境までをデザインし、建築都市の諸問題を解決するための学問追求という教育理念に基づき、現実に即したアイデアと理論的裏付けのあるデザインにより、建築や都市の将来を担える高い能力を備えた建築家、技術者を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校で学習する内容をよく理解して、建築学や都市工学を学ぶために必要な基礎学力を備えている人 ・ 建築や都市に強い関心を持ち、未知の課題に取り組むことやデザインをすることに意欲がある人 ・ 建築都市デザイン学部で学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人 ・ 建築学や都市工学と社会の関わりについて考えることができ、幅広い視野を持って社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人 <p>【高校での学習について】 建築都市デザイン学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B） ・ 理科（物理基礎、化学基礎、物理、化学） ・ コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ <p>上記以外に、高校で学ぶすべての科目を重層的に履修することが望まれます。</p>

<p>学部等名 情報工学部（旧 知識工学部）</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>高度に発達した情報技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識や技術を体系的に身に付けるとともに、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有し、社会が要請する情報システムやサービスを実現して国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報工学の基礎となる科学から応用としての情報技術までを体系的に理解するとともに、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力、および国際的に活躍できる能力を修得している。 2. 各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力、および関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>

<p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な科学技術の知識を総合的に修得し、それら技術を課題解決・価値創造に活用し、さらに、国際人として活躍できるようにするため、「教養科目、体育科目、外国語科目、PBL科目」「情報工学基盤科目」「専門科目」を体系的に配置する。 2. 学部の教育・研究目標を、社会の多様性に応じて実現するために、学部共通の「情報工学基盤科目」内に「情報基盤系」科目群を配置し、学生のアカデミックキャリアの早期からのプランニングと実践を支援する。 3. 学生同士および学生と教員が多く時間を共有し、相互の多様性を認めつつ連帯感を持ちながら課題・研究等に取り組む「卒業研究関連科目」群を「専門科目」内に配置することで、主体的に研究・開発を担う資質の養成と、建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養う。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的人材の養成及び教育研究上の目的】</p> <p>現代の“情報社会”はネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術および人工知能（AI）等の発展により“超スマート社会”に進化しようとしています。“超スマート社会”では、情報科学の様々な専門知識を身に付けた技術者、IoTを駆使できる技術者、AI・ビッグデータ解析技術等を諸問題解決に適用できる能力を有する技術者が必要です。情報工学部では、“超スマート社会”の発展に寄与する「知の創造」を担う人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> • “超スマート社会”において、イノベーションから新たな価値の創造（知の創造）を志向する人 • 数学・自然科学に対して興味と探究心を持ち基礎学力と思考力を合わせ持つ人 • “超スマート社会”を支える知識・技能を修得する志を持つ人 • 修得した知識と技能を利用して、国籍、経歴、専門等が異なる人々とコミュニケーションし協働作業をすることを志向する人 <p>【高校での学習について】</p> <p>情報工学部での学修を無理なく進めるために、高等学校において、数学、理科、英語を中心とした基礎学力を身に付けておいてください。特に、数学に対しては「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B」を、英語に対しては「コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ」を、それぞれ履修していることが望まれます。</p>
<p>学部等名 環境学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <p>グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p> <p>(概要)</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士</p>

<p>(環境学)の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。 2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に着けている。 3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境に関連する幅広い視野と教養を身に着けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。 2. 高い倫理観をもって社会の持続可能な発展を構想し、かつ環境問題を科学的に調査、分析及び評価するために、自然・人文学・社会科学における広範かつ必要な専門基礎科目を設置する。 3. 環境問題を解決する専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科基盤科目と学科専門科目を設ける。学科共通の基盤科目として、数理統計系科目、分析計測系科目、環境問題と関連する科目群を配置する。また、学科の専門科目として、各専門分野に独自の専門性の高い科目群を配置する。 4. 3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修として設置する。学生が主体的に問題を発見し、その問題に適した理論的枠組みを作り、調査や分析を行い、問題の解決に関する論文を執筆して発表する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【人材の養成および教育研究上の目的】</p> <p>環境問題の解決には、自然生態系と社会システムの間を総合的に理解し改善することが必要です。そのために、自然と調和した地域や都市の環境を創生する能力を備えた人材、経済活動の環境負荷を低減した社会システムを実現する能力を備えた人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系の保全・復元、環境に配慮した都市環境、持続可能な社会を実現する意欲のある人 ・ 自然のメカニズムや環境の分析・調査に関する知識や技能を身に付けたい人 ・ 環境問題を理解する思考力や環境を可視化し発信する表現力を身に付けたい人 ・ 環境問題解決のために主体的に行動し、周囲と協働できる人 ・ 多様な人々や価値が共存するグローバル社会に対応する意欲のある人 <p>【高校での学習について】</p> <p>環境学部での学修を無理なく進めるために、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B） ・ 国語（国語総合） ・ 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
<p>学部等名 メディア情報学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>

<p>(概要)</p> <p>人間と情報通信技術の調和による、より良い社会の実現に向けて、人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解した上で、社会的仕組みや情報システムを調査・分析する能力を身に付けるとともに、新しい仕組みやシステムを実現・評価・改善することができる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、社会メディア学科においては学士（社会情報学）、情報システム学科においては学士（情報学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科が設定した専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得している。 2. 情報と社会に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。 3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提案やシステム構築のための基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と社会に関する幅広い視野と教養を身につけるため、自然科学・社会科学両面の「教養科目」及び「体育科目」を設置し、また異なる文化や価値観の人々とのコミュニケーション能力を身につけるために「外国育科目」を設置する。 2. 情報と社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等を、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として「専門基礎科目」を設置する。 3. 学科に係る専門的な方法論と知識を学び、また学科の専門分野に共通して修得すべき知識の学習を行って専門科目での学習の基盤を養うため「学科基盤科目」を配置する。 4. 社会・人間環境や情報環境に関する現状やニーズの調査・分析、評価、問題解決に向けて、実習や演習を重視し実践的に能力の積み上げを図るための「学科専門科目」「専門科目」を体系的に設置する。 5. 調査・分析能力及び問題解決・提言能力のさらなる涵養と、主体的に研究・開発を担う資質の育成、さらには建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養うことを目的として、「事例研究」「卒業研究」を設定する。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【人材の養成および教育研究上の目的】</p> <p>変化する情報・コミュニケーション環境のもとで、新たな情報社会を創り出すことを目指します。そのために情報通信技術が生み出す社会を調査、分析し、より良い生活の実現に向け、情報システムや社会の仕組みを創造し、さらに評価、改善できる人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学科の学修に必要な基礎的学力を身に付けている人 • 学科の研究領域に関心を持ち、情報と社会の諸問題に取り組む高い意欲がある人 • 知的好奇心が旺盛で、主体的に学修を深めることができる人 <p>【高校での学習について】</p> <p>メディア情報学部での学修を無理なく進めるために、高等学校での学修について以下のことを求めます（社会人・外国人留学生については、必ずしもその限りではありません）。</p>

<p>[社会メディア学科]</p> <p>次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ） 国語（国語総合）または数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B） <p>[情報システム学科]</p> <p>次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ） 数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）
--

<p>学部等名 都市生活学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p>
<p>（概要） 都市の経営とデザインに関する企画力を有し、事業の推進及び管理運営を担う構想力・実践力を兼ね備え、都市に関する豊富な知見と国際人として活躍できるコミュニケーションスキルを活用して、魅力的で持続可能な都市生活の創造に資する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p>
<p>（概要） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。 2. 社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。 3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p>
<p>（概要） 都市生活学部では、持続的で魅力的な都市生活の創造にかかわる企画・業務において、国内は勿論、グローバルな場で活躍できる人材を育成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑化する都市社会の中で確かな価値を見抜く力を養うとともに、国際人として活躍できるコミュニケーション能力の獲得を目指して、社会、歴史、文化、芸術分野を幅広く含む「教養科目」と、「外国語科目」および「海外留学プログラム」を設置する。 2. 経営学的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して「演習科目」を設置するとともに、都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する。 3. 特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得するため、「プロジェクト演習」および「卒業研究」を設定する。
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p>
<p>（概要） 【人材の養成及び教育研究上の目的】</p>

国際化、情報化が進み、世界人口の半数以上が都市に暮らす現代、人々の生活の質を持続的に高める都市創造の学問と実践が必要です。都市を学ぶ総合的な学修環境の中で、社会科学と空間デザインの両方のスキルを幅広く習得し、都市の新時代をリードするビジネスと文化の創造力を身に付けて、企業人や造力を身に付けて、企業人や専門家として国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- 都市生活学部の理念に共感し「都市」に関心を持ち、将来、都市に関連する分野で活躍したいと望む人
- 商学や経営学等の社会科学系の勉学を基本にし、街並みやインテリアなどの空間デザイン、都市の文化・芸術など、幅広い分野に興味を抱き、好奇心旺盛な人
- 世界中の都市を舞台に、価値ある都市生活の創造に向けて国際社会で活躍したいと望む実践的な人

【高校での学習について】

都市生活学部での学修を無理なく進めるために、高等学校の次の科目を履修していることが望まれます（入学試験のタイプで受験科目は異なります。また、国際化対応のために英語力の研鑽などが望まれます）。

- 英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）
- 国語（国語総合）
- 地歴（世界史A、日本史A、地理A、世界史B、日本史B、地理Bの中から2科目以上）
- 数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

学部等名 人間科学部
<p>教育研究上の目的 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要） いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた高い専門性を持つ、自立した人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。 2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。 3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。 4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/）</p> <p>（概要） 人間科学部では、児童学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。</p>

1. 基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広い科目を設置する。
2. 基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。
3. 幼稚園教諭一種、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。
4. 「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、現代社会の多様な課題に取り組み、国際的な視点をもって探究する力を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：インターネットにより公表 <https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>)

(概要)

【人材の養成及び教育研究上の目的】

人間科学部では、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目指しています。

【求める人物像】

- ・ 子どもと子どもに関わる大人について学ぶ意欲の高い人
- ・ 大学で学ぶための基礎学力がある人
- ・ 自律心があり、人と協力しながら積極的に行動できる人
- ・ 目的に向かって困難を乗り越え努力しようとする強い意思を持つ人

【高校での学習について】

人間科学部での学修を無理なく進めるために、文系科目はもとより、理系科目も含めた幅広い基礎的知識の学習が必要です。特に国際的な観点からも外国語の能力が求められます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

インターネットにより公表

<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
理工学部	－	42人	38人	15人	人	人	95人
建築都市デザイン学部	－	14人	11人	4人	人	人	29人
情報工学部	－	14人	4人	5人	人	1人	24人
環境学部	－	13人	7人	人	人	人	20人
メディア情報学部	－	13人	6人	1人	人	人	20人
都市生活学部	－	8人	11人	人	人	人	19人
人間科学部	－	5人	9人	人	人	人	14人
教養部（一般教養）	－	14人	14人	9人	人	人	37人
附置研究所	－	2人	1人	1人	人	人	4人
その他	－	9人	人	1人	人	人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		268人					268人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：「研究者情報データベース」にて公開 https://www.risys.gl.tcu.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
理工学部	620人	679人	109.5%	2,640人	2,781人	105.3%	0人	5人
建築都市デザイン学部	220人	254人	115.5%	660人	689人	104.4%	0人	3人
情報工学部	180人	187人	103.9%	780人	866人	111.0%	0人	0人
環境学部	180人	189人	105.0%	680人	724人	106.5%	0人	1人
メディア情報学部	190人	198人	104.2%	740人	832人	112.4%	0人	0人
都市生活学部	160人	168人	105.0%	640人	685人	107.0%	0人	0人
人間科学部	100人	102人	102.0%	400人	416人	104.0%	0人	0人
合計	1,650人	1,777人	107.7%	6,540人	6,993人	106.9%	0人	9人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	704人 (100%)	261人 (37.0%)	408人 (58.0%)	35人 (5.0%)
知識工学部	313人 (100%)	74人 (23.7%)	222人 (70.9%)	17人 (5.4%)
環境情報学部	1人 (100%)	0人 (0.0%)	1人 (100%)	0人 (0.0%)
環境学部	153人 (100%)	16人 (10.5%)	124人 (81.0%)	13人 (8.5%)
メディア情報学部	181人 (100%)	4人 (2.2%)	160人 (88.4%)	17人 (9.4%)
都市生活学部	156人 (100%)	12人 (7.7%)	133人 (85.3%)	11人 (7.0%)
人間科学部	96人 (100%)	0人 (0.0%)	93人 (96.9%)	3人 (3.1%)
合計	1,604人 (100%)	367人 (22.9%)	1,141人 (71.1%)	96人 (6.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	755人 (100%)	628人 (83.2%)	83人 (11%)	44人 (5.8%)	0人 (0%)
知識工学部	349人 (100%)	279人 (79.9%)	49人 (14%)	21人 (6%)	0人 (0%)
環境学部	163人 (100%)	137人 (84%)	18人 (11%)	8人 (4.9%)	0人 (0%)
メディア情報学部	193人 (100%)	162人 (83.9%)	19人 (9.8%)	12人 (6.2%)	0人 (0%)
都市生活学部	170人 (100%)	146人 (85.9%)	12人 (7.1%)	12人 (7.1%)	0人 (0%)
人間科学部	102人 (100%)	96人 (94.1%)	1人 (1%)	5人 (4.9%)	0人 (0%)
合計	1,732人 (100%)	1,448人 (83.6%)	182人 (10.5%)	102人 (5.9%)	0人 (0%)
(備考)					
知識工学部 ⇒ 工学部 1名 (卒業)					
工学部 ⇒ 知識工学部 2名 (1名卒業、1名留年)					
環境学部 ⇒ メディア情報学部 1名 (留年)					
工学部 ⇒ 環境学部 2名 (1名留年、1名退学)					
工学部 ⇒ 情報科学部 1名 (留年)					
工学部 ⇒ メディア情報学部 1名 (退学)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度中に科目担当者がシラバスを作成する。その後、科目担当者以外の第三者が、記載内容が適正であるかをチェックし、必要に応じて修正した上で、前年度の3月31日までにシラバスを予めインターネットにより公表している。</p> <p>https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【学修の成果に係る評価】</p> <p>成績評価の基準は100点満点法で、59点以下が「不可」、60～69点が「可」、70～79点が「良」、80～89点が「優」、90～100点が「秀」と定めている。</p> <p>なお、これらは全学生に配付している学修要覧の履修要綱において定めており、インターネットにおいても公表している。</p> <p>https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/</p> <p>【卒業の認定に当たっての基準】</p> <p>本学を卒業するためには4年以上在学して、学則に規定する卒業要件を満たさなければならない。</p>

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理工学部 (旧 工学部)	機械工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	機械システム工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	電気電子通信工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	医用工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	応用化学科	124単位	有・無	半期 20単位
	原子力安全工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	自然科学科	124単位	有・無	半期 20単位
	建築学科	124単位	有・無	半期 24単位
建築都市 デザイン学部	建築学科	124単位	有・無	半期 20単位
	都市工学科	124単位	有・無	半期 20単位
情報工学部 (旧 知識工学部)	情報科学科	124単位	有・無	半期 20単位
	知能情報工学科	124単位	有・無	半期 20単位
	自然科学科	124単位	有・無	半期 24単位
	情報通信工学科	124単位	有・無	半期 24単位
環境学部	環境創生学科	124単位	有・無	半期 20単位
	環境経営システム学科	124単位	有・無	半期 20単位
メディア情報学部	社会メディア学科	124単位	有・無	半期 20単位
	情報システム学科	124単位	有・無	半期 20単位

都市生活学部	都市生活学科	124単位	有・無	半期 20単位
人間科学部	児童学科	124単位	有・無	半期 20単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/effort_2/		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：インターネットにより公表 https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法： インターネットにより公表 / https://www.tcu.ac.jp/facilities/ 刊行物により公表 / 「大学案内 2022 (5,000部発行)」をキャンパス内に設置するとともに、各種イベントでも配布している。また本学ホームページ上でも公開している。 https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/04/book2022.pdf</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
理工学部/ 建築都市デザイン 学部/ 情報工学部	全学科 1～2年生	1,476,000円	200,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
	全学科 3～4年生	1,380,000円	240,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
環境学部/ メディア情報学部	全学科 1～2年生	1,290,000円	200,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
	全学科 3～4年生	1,250,000円	240,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
都市生活学部	都市生活学科 1～2年生	1,194,000円	200,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
	都市生活学科 3～4年生	1,130,000円	240,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分。
人間科学部	人間科学科 1～2年生	1,176,000円	200,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分
	人間科学科 3～4年生	1,130,000円	240,000円	60,000円	その他の6万円は休学時の 在籍料で半期分

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 自ら学ぶ意欲と、確実な専門力と人間力を兼ね備えた学生を育てるために、学生の主体性を 培う教育内容・方法、学びの拠点となる施設の整備、TA・SAなどの教育サポート体制の充実 など、大学全体で主体的な学びを促進している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 本学では、就職の環境に左右されることなく、学生が低学年から本質的な学びに対するモチ ベーションを向上させ、社会で通用する力を高める支援を目指しており、以下のような取組 を行っている。 ①キャリアデザイン講座の開設、②キャリア情報記録システムの導入、③キャリアアセスメ</p>

ントツールによる自己理解、④キャリア相談体制の確立、⑤国内外インターンシップの推進。これらにより、単に就職するための支援に留まらず、大学卒業後も、自ら学び続け、能力を高めていける学生を一人でも多く社会に送り出すよう努めている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

医務室の開設

医師（定期的に来室）や養護職員（常時勤務）が、学生の心身の健康を保持、増進していくために必要な知識の提供や相談を受けたり、簡単な処置等を実施。ベッドや身長体重計、視力測定器、血圧計などの測定機器も設備。毎年4月に学生定例健康診断を実施している。

「学生相談室」の設置

学生が大学生活を送っていく中で生じる悩みや疑問など、どんな事柄についても専門の相談員（カウンセラー）が親身になって話を聞き、共に考えて、学生が自ら問題の解決ができるよう支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：上記①～⑨について、インターネットにより公表

①<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

②<https://www.tcu.ac.jp/guidance/configuration/>

③<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

<https://www.risys.gl.tcu.ac.jp/>

④<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

⑤<https://www.tcu.ac.jp/academics/syllabus/>

⑥<https://www.tcu.ac.jp/guidance/data/>

https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/effort_2/

⑦<https://www.tcu.ac.jp/facilities/>

<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2022/04/book2022.pdf>

⑧<https://www.tcu.ac.jp/entrance/expenses/>

⑨<https://www.tcu.ac.jp/guidance/efforts/>

<https://www.tcu.ac.jp/recruiting/>

<https://www.tcu.ac.jp/campuslife/support/consultation/>